

2019. 8. 4. 聖霊降臨節第9主日・平和聖日礼拝式説教

ルカ福音書講解説教

聖書：ルカによる福音書4章14-30節

『聖書の言葉がわかる』

荒れ野で悪魔の誘惑を受け、その誘惑をすべて退けた主イエスは、聖霊によって生まれ故郷ガリラヤの地に戻り、いよいよ宣教の働きを始められました。

宣教の始めの主イエスの言葉、それはただ単に初めの言葉というだけでなく、そこに主イエスの宣教の中心、核となるもの、方向が示されるという点でとても大事な言葉です。マタイ、マルコ、ルカの三つの福音書はその宣教の始めの言葉が皆違います。これはとても興味深いことです。違っているということはバラバラを意味しません。むしろ、それによって主イエスの宣教の豊かさの奥行きが示されていく、そういうことです。

今朝はルカによる福音書の主イエスの宣教の始めに聞きますが、ルカ福音書4章14節から30節を二回に分けて、聞いていきたいと思います。今朝はその前半の部分を中心に聞いてまいります。

主はガリラヤへ戻られ、各地の諸会堂で教え始められました。会堂はシナゴグと呼ばれるユダヤ人の礼拝所で、わたしたちがいま行っている礼拝の原型のような形で礼拝が執り行われていました。聖書の言葉が朗読され、解き明かしがあり、詩編の讃美があり、祈りがある。そのような礼拝が行われていました。主イエスは自分の故郷ナザレに来て、会堂に入られ、聖書を朗読するためお立ちになりました。これはユダヤ人の成人男子ならば、誰でも奉仕することで、主イエスは預言者イザヤの巻物が渡され、その巻物を開きました。そこで主イエスが朗読されたのが、18節の言葉でした。これはイザヤ書の61章、58章の言葉からのものです。こうした聖書から縦横無尽な引用は普通のことでした。

「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために。主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、囚われている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」おそらくナザレの会堂に集まったユダヤ人たちの誰もがよく知る聖書の言葉だったと思います。預言者イザヤに対して語られた神の言葉。神のなさろうとする救いの業を語った預言の言葉でした。

貧しい人に福音を告げ知らせるために、主はわたしを選び、主の霊がわたしを導く。ここで言う貧しい人というのは、経済的な貧しさはもちろんのこと、その後に出てくる、囚われている人、目の見えない人、圧迫されている人をすべて含む貧しさ、困窮の中にあり、閉ざされ、大きな力に押しつぶされそうになっている人、その全部を指して貧しい人と呼んでいるのです。その貧しい人に福音を告げ知らせるため、主の恵みの年を告げるため、預言者は遣わされる。そう語っているイザヤ書の言葉です。

主の恵みの年とは、ヨベルの年のことで、50年に一度ユダヤでは、すべての奴隷は、解放され、貧しさゆえに売ることを余儀なくされた土地は元の所有者に無償返却、という制度がありました。まさに、そのような解放、回復、が告げられるために預言者は遣わされる、と旧約聖書は語るのです。

そのイザヤ書の言葉が、今、イエス・キリストによって朗読された。しかもそれはキリストの宣教開始の最初の言葉としてここで朗読されたのです。

キリストは、「この聖書の言葉は、今日、あなたが耳にしたとき、実現した。」と会堂にいる人々に向かって語られ、さらに話し始められた、のです。これまで、預言者を通して聞いてきた約束の言葉が、神によってこの世に降誕された神の子、イエス・キリストによって語られる時、このイザヤの言葉は、預言ではなく成就、実現した言葉になったのだ、現実のものとなったのだ、と言われたのです。神の救いの業はここから始まっていく。神の恵みは、具体的な形と内容をもって、イエス・キリストにおいて実現していく。神の愛は、あなたをすべて引き受けていく愛は、キリストにおいて成就する、そう語り始められたのです。

キリストは「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」といわれました。原文では、今日という言葉が一番前に置かれています。「今日、今、この聖書の言葉は、あなたがたの耳において実現した」不思議な言葉です。ただ実現した、というのではなく、あなたがたが耳にしたとき、あなたがたが聞くことによって、実現した、といっているのです。今日、あなたが、このキリストの言葉を聞いて、そうだ、キリストは貧しい人に福音を告げ知らせてくださり、囚われているものに解放を与えてくださったのだ。キリストがわたしの救いを実現してくださった、そう聞いてわかるとき、この言葉はその人の中で実現している、ということなのです。福音はそれが聞かれることを求めます。一人一人が聞いて、わかる、ということが求められる。

わかる、といわれるとわたしはそれほどよくわからない、としり込みされることが多

い。聖書研究の時などに、わかったようなわからない言葉です、という言い方をされることがあります。確かにわかる、ということは言葉の意味が分るとか、言葉の歴史的な背景がわかるとか、いろいろな面、レベルがあります。しかし今なるべく話を単純化して、とにかく自分として、その言葉が受け取れる、相手の気持ちの中で、その言葉を受け取れる、充分なんてことはないけれど、とにかく自分にむけられた言葉としてわかる、そういうわかるが大事なのです。そういうわかるが与えられる、という感じですか。それがとにかく私のとっかかりなのです。全部わかるとか、全部くみ取る、というようなことは、それはどんな場合でも無理です。しかしわかる、というところが与えられ、そこからまたわかるが少しずつであっても開かれていく、広がっていく。主が言われたように、主がなさったように、今日、礼拝で語られたみ言葉を聞いて、わかる、そこで救いは、どんな形であれ、その人の中で、実現していくのです。「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」との主の言葉は、忘れてはならない言葉なのです。

その上で、もう一度、18節の言葉に聞きたい。キリストは、貧しい人に福音を告げ知らせるために遣わされた。貧しい人とはだれか。イザヤ書では、囚われている人も、目の見えない人も、圧迫されている人も、すべて、貧しい人として語られている。自分はこのどれにも該当しない、と思う人もいるでしょう。貧しさにあえぐ世界中の貧困層の人々ではわたしはしない。囚われ、獄中にいるわけではない。目が見えない、ということもない。圧迫されている、というわけでもない。だから、自分はどれにも該当しない、という人もいるかもしれません。この解放、という言葉、自由にし、というのも同じ言葉、この解放という言葉は、旧約ではほぼ、解放という意味に使われた。新約では、赦しという意味でつかわれることが圧倒的。

すると、囚われている人とは、罪に囚われている人であって、罪の赦しを必要としている人、と読むことができ、目の見えない人とは、罪のゆえに目が見えなくなっている人であり、圧迫されている人とは、罪の力や悪魔の力に圧迫されている人に赦しを、という意味が拓かれてきます。

貧しい人とはどういう人のことをいうのか。貧しい人々は幸いである、と主は言われたのですが、貧しい人とはどういう人なのか。ユダヤではしばしば謙遜な人、という意味で使われたようですが、この18節の文脈から読み取ることができます。それは、罪に囚われ、目が見えなくされ、悪魔の力に押しつぶされそうになっていて、自分ではどうすることもできない人、ただ主の救いに頼るほかないもの、それが貧しい人、ということでしょう。自分では自分をどうすることもできない、罪の奴隷になっている自

分、その自分に対して、福音を、キリストによる救いを告げ知らせるために、赦しを与えるために、イエス・キリストはおいでくださった、そのことを今日、聞くのです。

そして、そのキリストの恵みを受け取るのなら、それはどんな形であっても、わかる、ということが与えられているのです。そのわかった恵みを大切に今日を生きる。そしてまた聞く。そして生きる。キリストは、宣教の始め、その第一声で、そのことの大切さ、大事さ、恵み、信実を語り始められたのです。

D a t a : 聖霊降臨節第9主日礼拝式

讃美 : 前356、後425

新生教会礼拝堂